

財政状況の公表（23年度上半期）概要

※各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

① 23年度予算のあらまし 一般会計「1号補正」の概要

補正額 30億4,697万3千円

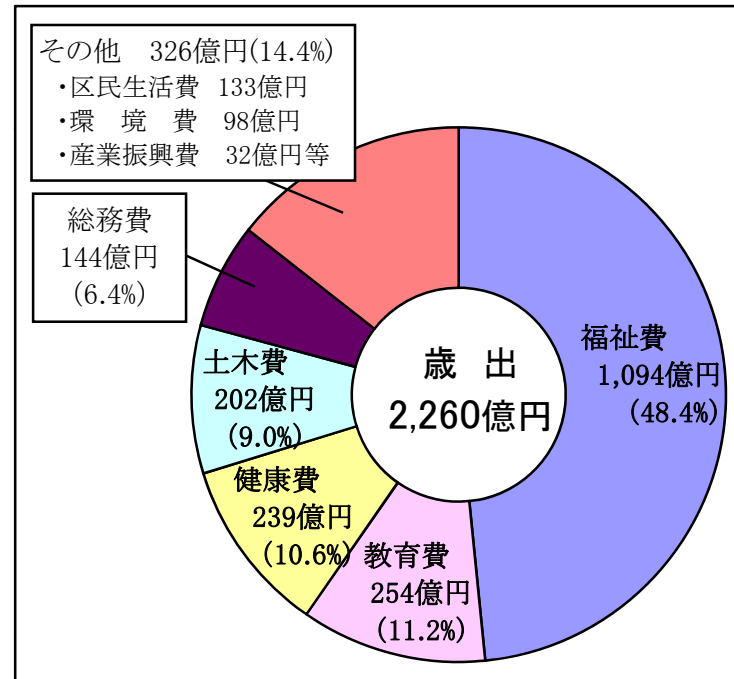
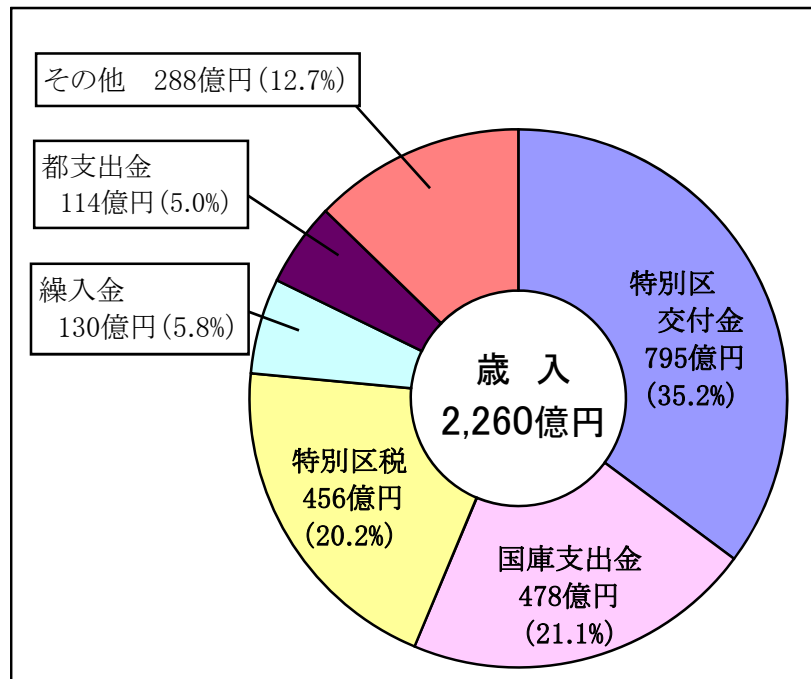
＜歳入＞

◇特別区債	13億6,600万円
◇繰越金	11億3,872万8千円
◇諸収入	4億8,577万8千円
◇寄付金	3,728万円
◇都支出金	1,787万5千円
◇使用料及び手数料	131万2千円

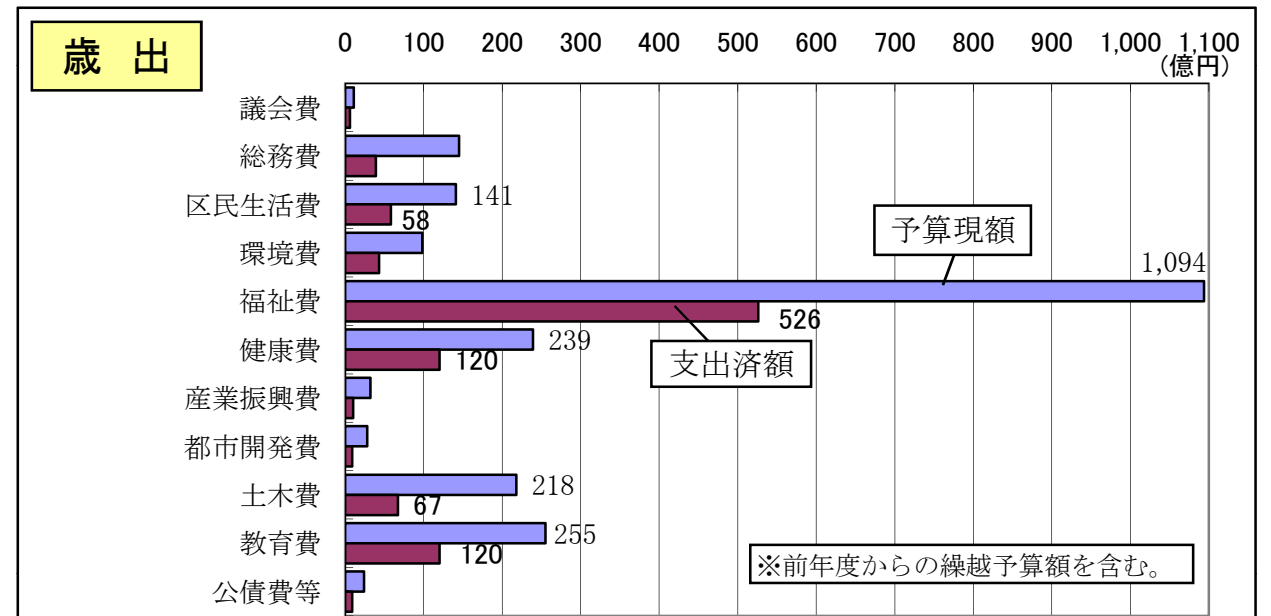
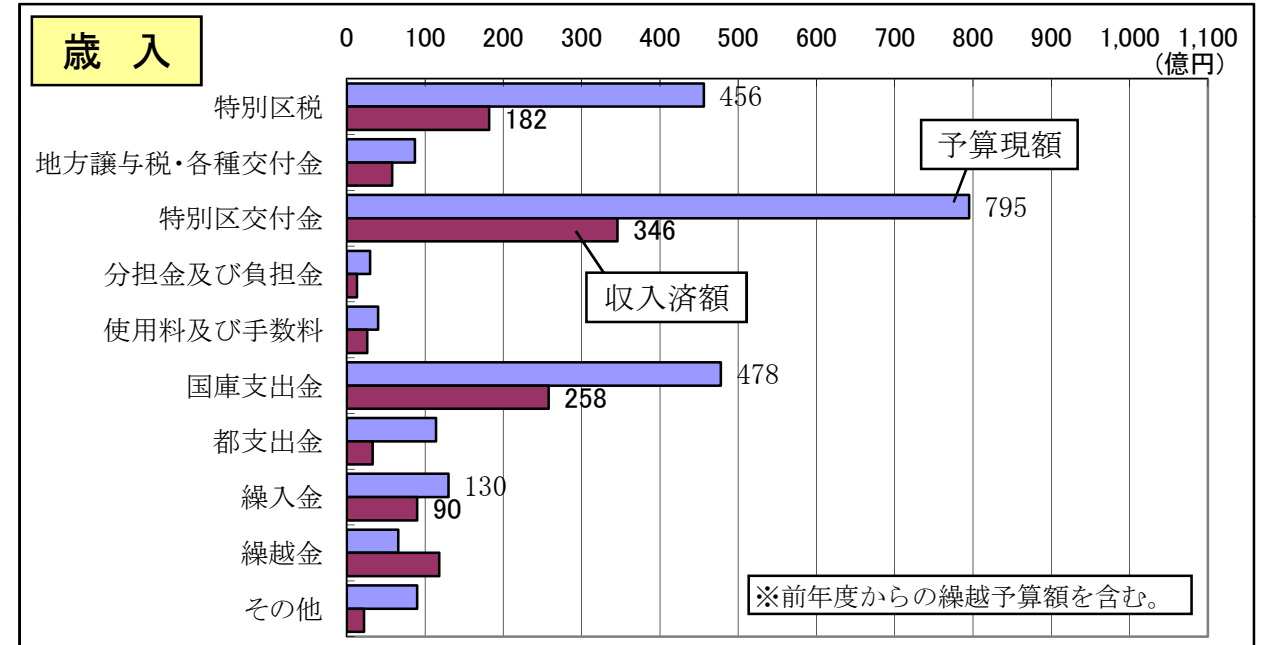
＜歳出＞

◇一之江名主屋敷整備費	18億 230万4千円
◇東日本大震災対策経費 (被災者支援経費、防災対策経費、施設補修経費等)	5億 789万8千円
◇都施工の都市計画道路補助第143号線整備に係る 区施設の移設経費	3億5,123万2千円
◇定期予防接種費(日本脳炎勧奨拡大)	1億2,617万4千円
◇商品券エコサマーフェア補助金	5,600万円
◇その他	2億 336万5千円

補正後の一般会計予算の構成

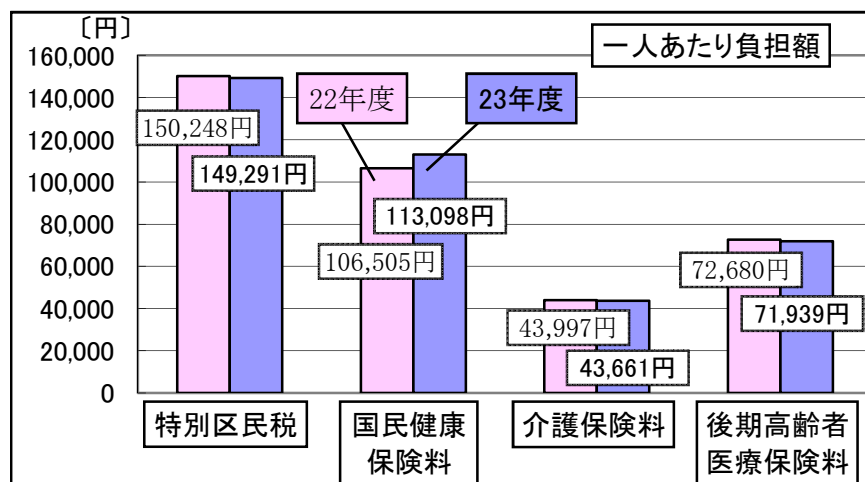


② 23年度予算の執行状況 一般会計（平成23年9月30日現在）

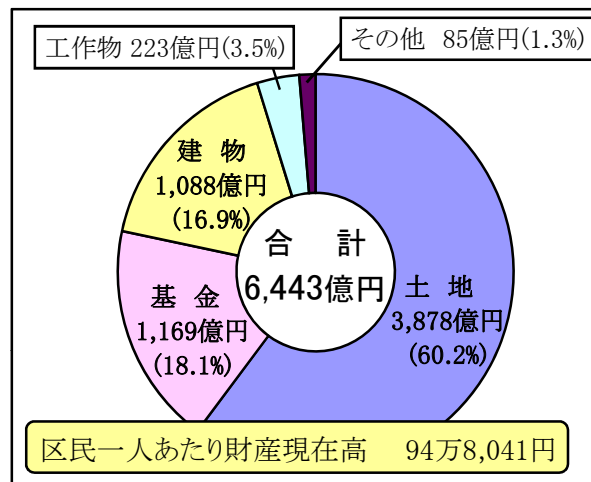


江戸川区の人口(住民基本台帳人口+外国人登録人口) 679,576人(平成23年9月30日現在) <東京23区中 4番目>

③ 区民の負担概況（平成23年9月30日現在）



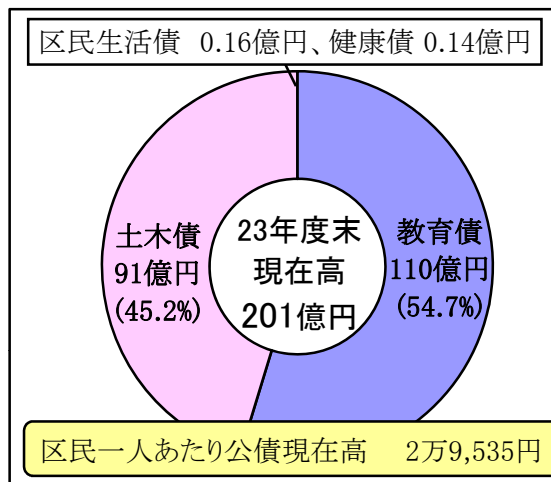
④ 財産の現在高（平成23年9月30日現在）



基金とは…

積立基金と運用基金の2種類があります。左の基金はこの2つの合計です。
積立基金は、家計でいうと貯金です。災害発生時や老朽化した施設の改築等への備えで、9月末現在高は969億円です。
運用基金は、一定額の基金を土地取得のために運用するもので、200億円あります。

⑤ 公債の現在高（平成23年9月30日現在見込）



公債(区債)とは…

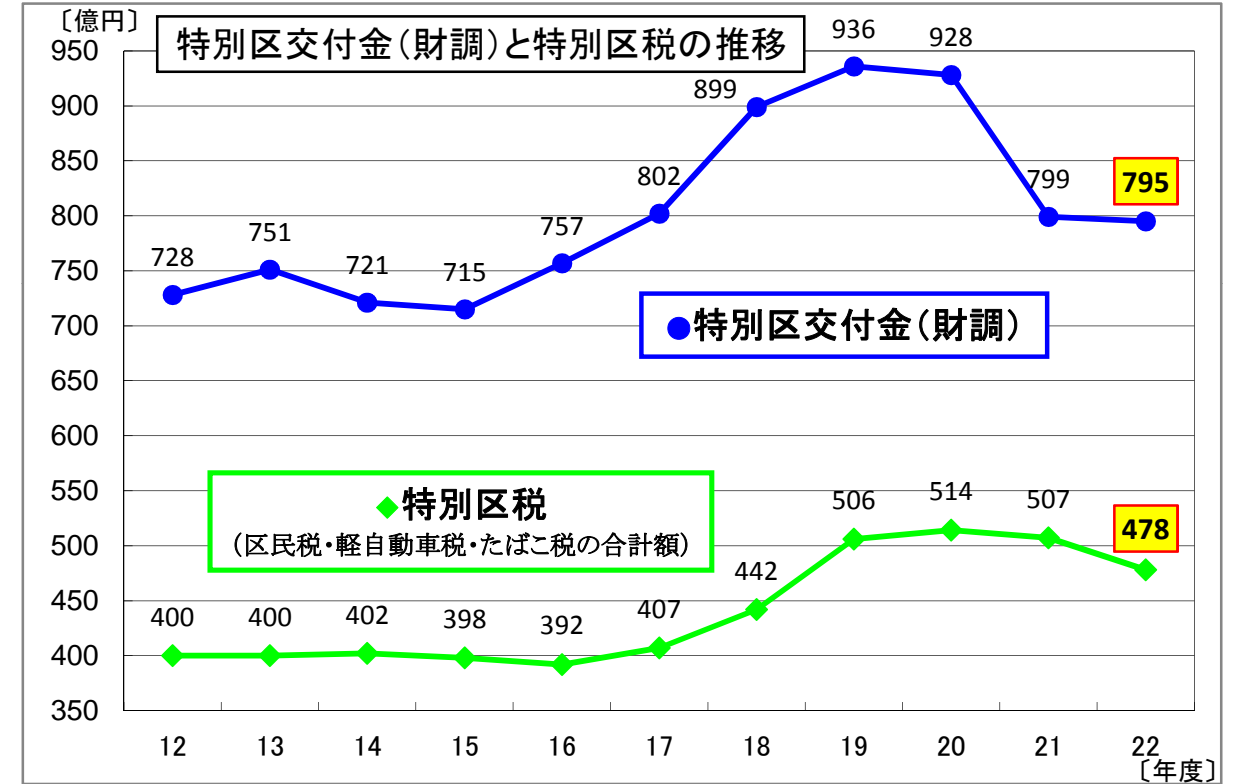
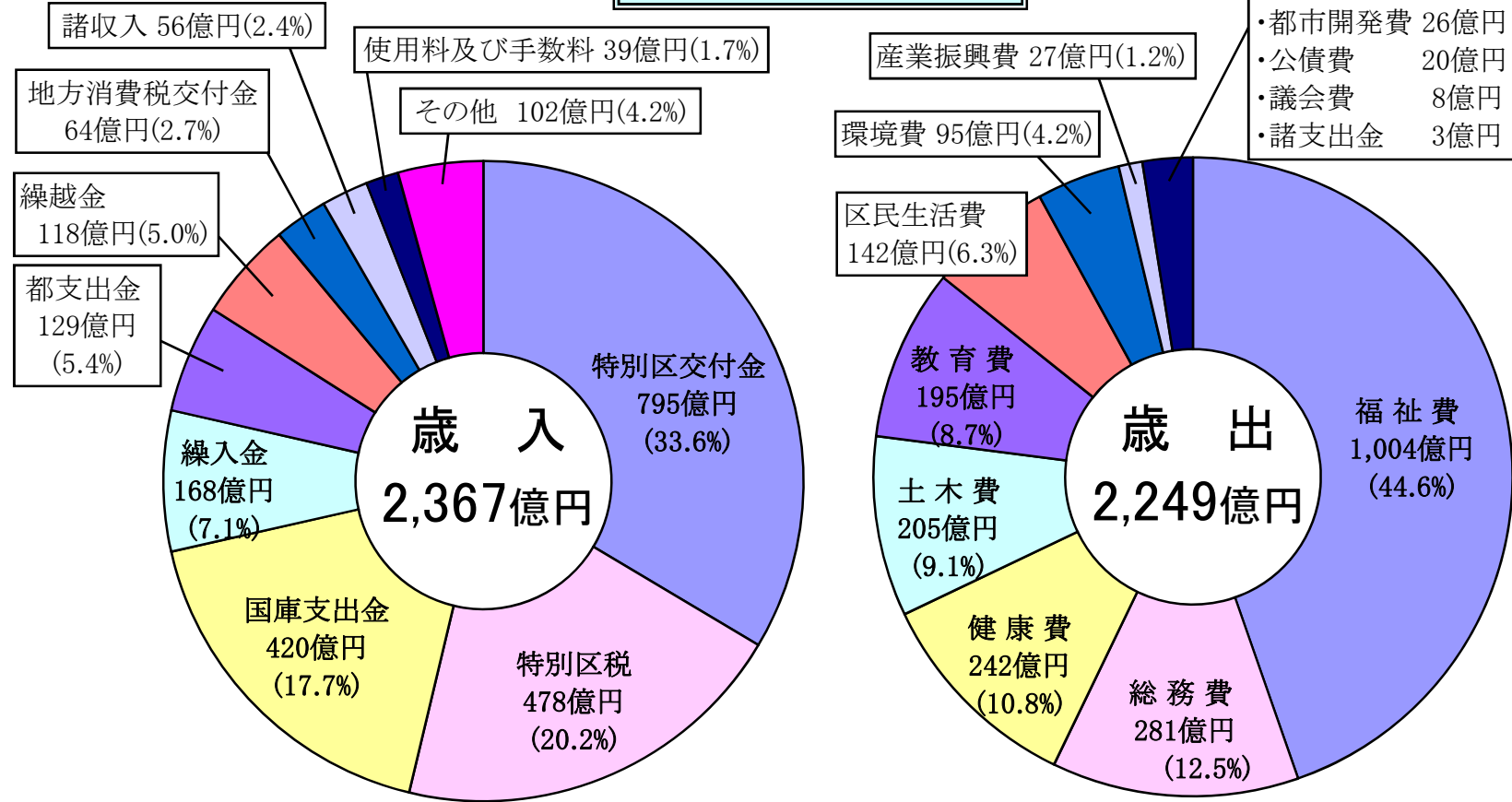
家計でいうと住宅ローンなどの借金です。
道路整備や学校の大規模改修など、いくつかの世代にわたって利用することのできる施設について、将来の区民の方々にもその費用の一部を負担していただくため、公債(区債)を借入れ、負担の公平を図っています。

平成22年度 決算の概要

※各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

江戸川区の人口(住民基本台帳人口+外国人登録人口)
680,380人(平成23年3月31日現在) <東京23区中4番目>

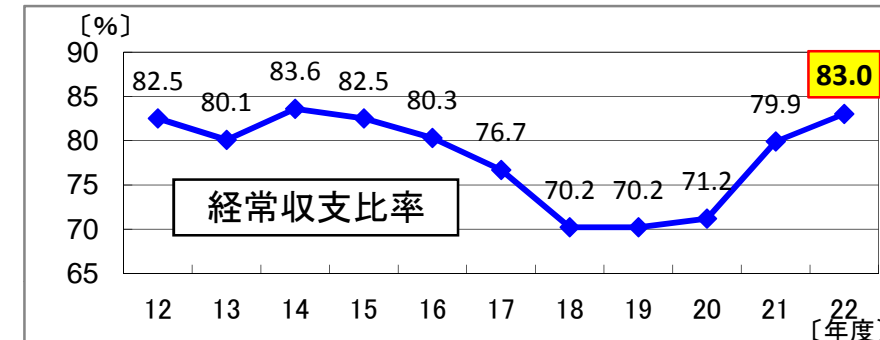
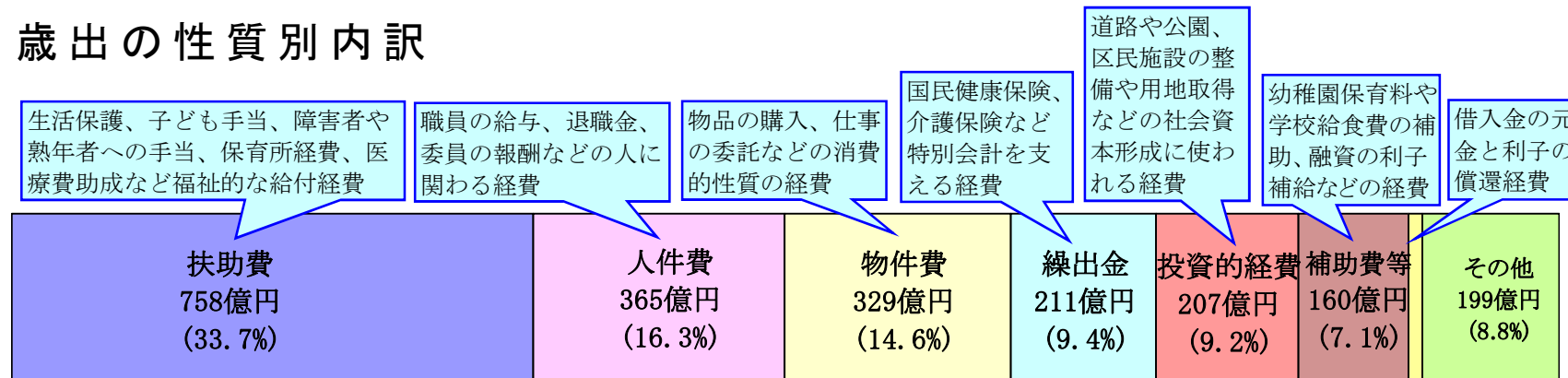
一般会計



平成19年度は、税率フラット化、定率減税全廃等により特別区税は大幅な増収となりました。しかし、この増額とはほぼ同規模の国・都補助金が削減されているため、区の収入総額が増えたわけではありません。また、特別区交付金(財調)は、都と区の配分率が52%から55%になり、過去最大の収入額になりました。

平成22年度は、特別区交付金(財調)が、21年度の大幅な落ち込みから回復せず、特別区税も景気低迷に伴う所得の減少等により減収となっています。

歳出の性質別内訳



経常收支比率

財政構造の弾力性を計る指標で、適正水準は70%~80%です。

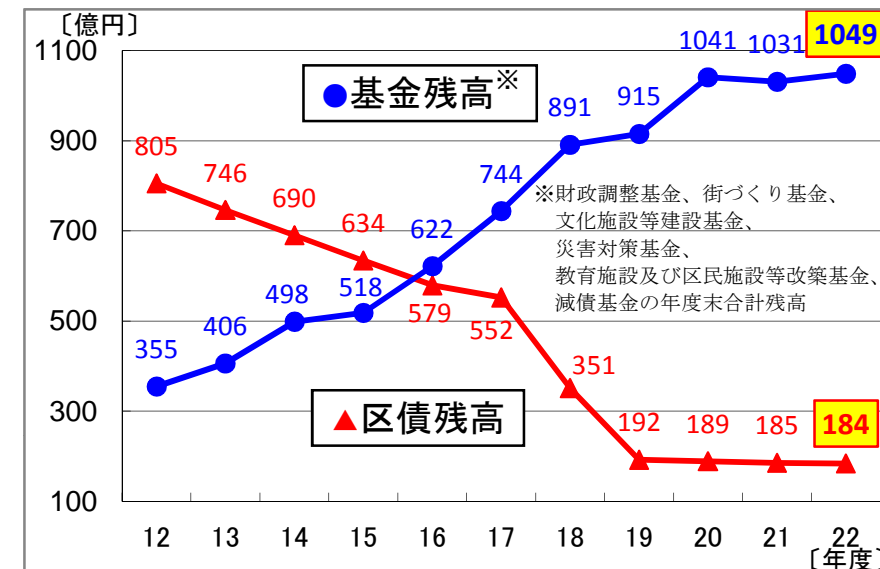
22年度は、前年度から3.1ポイント悪化し、適正水準を超えてしまいました。

平成22年度決算に基づく健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
江戸川区	—	—	△3.8%	—
早期健全化基準	11.25%	16.25%	25.0%	350.0%

※表中の「-」はマイナス値を表し、22年度決算が黒字であったこと、将来負担すべき額よりも基金(貯金)の方が多く、将来負担比率の該当がなかったことを示しています。

なお、実質公債費比率がマイナスの場合は「△」と表示しています。



区債と基金の残高

区債残高は、18・19年度に繰上償還を行ったことにより減少し、22年度末では184億円になりました。

主要6基金残高は、「財政調整基金」などへの積立により、前年度より18億円増加し、過去最高の基金残高となりました。

全国一位の健全性 (3年連続)

実質公債費比率は、収入規模に対し、借金の返済割合を示すものですが、平成20年度から3年連続で全国1,737の区市町村の中で最も良い数値となりました。

※早期健全化基準とは、この数値を超えると財政が危険な状態であることを示す、国が定めた指標で、江戸川区の場合の指標を記載しています。